

平成16年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成16年6月29日
高知県病害虫防除所

1. 病害虫名 イネハダニ
学名 : *Oligonychus shinkajii* Ehara

2. 発生物種 ミョウガ

3. 発生確認の経過

(1)平成16年4月、高岡郡窪川町の施設ミョウガハウスにおいて、葉が白くかすり状になる症状が見られ、葉に淡黄緑色のハダニが確認された。

(2)茨城大学農学部応用動物昆虫学研究室、後藤哲雄氏に同定を依頼したところ、これまで本県では未確認であったイネハダニであることが確認された。

(3)その後、県下のミョウガ栽培地帯を中心に調査を行ったが、現在、発生が確認されているのは上記のハウスミョウガ、約2aだけである。

(4)本種は、以前から沖縄本島や種子島、奄美大島のサトウキビでは代表的な害虫であり、本州や九州では温室内のイネやトウモロコシなどイネ科作物では周年寄生していることが確認されていたが、本県、またはミョウガでの発生確認は初めてである。

4. 形態

成虫は体色が淡黄緑色で、第4背中後体毛間のすぐ後ろの条線は縦走。胴背毛は起点間の間隔より長く、第5背中後体毛のみ著しく短い。

体長は雌が約0.40～0.51mmで、雄はやや小さく0.36mm内外である。

5. 被害状況

(1)食害を受けた葉は白いかすり状になるが、一見すると水和剤等による薬斑のよう見え、ナミハダニ等による食害とは異なる。イネハダニの密度が上昇すると葉全体に斑点が拡大し、生育が抑制され、葉は褐変する。

(2)葉の裏側に群棲し、葉鞘と茎の分かれ目の隙間にも好んで潜む習性がある。

6. 防除対策

(1)本種に対する農薬登録はないが、ミョウガのハダニ類に登録のあるコテツフロアブル、また、本県のミョウガでの経過措置承認農薬であるアフーム乳剤などで同時防除が可能である。

(2)ハウス周辺の雑草防除やハウスサイドへの寒冷紗被覆など耕種的防除もあわせて行う。

7. その他

本種は、サトウキビやトウモロコシなどのイネ科作物が主な寄主作物であるが、生態については十分にわかっていない部分が多く、また、被害症状も一般的なダニやアザミウマ類によるもの異なるため、ミョウガ栽培などで特に減農薬栽培などを行う場合は注意が必要である。

引用文献

1)江原昭三編(1993):日本原色植物ダニ図鑑 100～101



イネハダニ



被害葉(白いカスリ状)



被害葉(巣をつくっている)